

## 大江地域における公共交通再編についての説明会報告書

### 1 概要

平成29年8月に策定した「福知山市地域公共交通再編実施計画」に基づき、大江地域の公共交通再編を推進するにあたり、大江地域の公共交通の実態や市バスの再編案、公共交通空白地有償運送の導入検討等について地域住民に説明するため、大江地域6地区で説明会を行った。

### 2 開催日程・参加者

#### (1)河西地区(蓼原公民館)

- ・日時 令和2年8月24日(月)19時30分～20時50分
- ・説明者 市都市・交通課
- ・参加者 27名

#### (2)河守上地区(俊明多目的集会所)

- ・日時 令和2年8月25日(火)19時00分～20時30分
- ・説明者 市都市・交通課
- ・参加者 29名

#### (3)有路上地区(有路上公民館)

- ・日時 令和2年8月26日(水)19時30分～20時20分
- ・説明者 市都市・交通課
- ・参加者 19名

#### (4)河東地区(大江地域公民館)

- ・日時 令和2年8月27日(木)19時30分～21時00分
- ・説明者 市都市・交通課
- ・参加者 24名

#### (5)有路下地区(有路下多目的集会所)

- ・日時 令和2年8月28日(金)19時30分～20時50分
- ・説明者 市都市・交通課
- ・参加者 20名

#### (6)河守地区(大江町総合会館)

- ・日時 令和2年8月31日(月)19時30分～20時50分
- ・説明者 市都市・交通課
- ・参加者 23名

### 3 説明会での意見・質問

#### (1) 河西地区

各自治会から地域内で聴き取り等を行い、集約した内容の報告があった。

##### ① 参加者

「私の地域は6世帯9名しかいない。平均年齢も85歳と高齢であり、いつ免許を返納しなければならないかわからない状況だが、車が無いと生活できない。お願いした時に町内を回ってもらえるような体制を検討していただけたらありがたい。」

##### ② 参加者

「私の地域は昔は車内がいっぱいになるぐらいの人がバスに乗っていたが、今は50代ぐらいの若い人が車に乗せてくれるようになって、バスの利用者が減った。しかし、将来、この若い人たちが車を運転できなくなった際にはバスが必要になる。市から提案があったように、デマンドでもいいのでバスを維持してほしい。完全に廃止になるのは困る。」

##### ③ 参加者

「私の地域のバス利用者はゼロだと思う。現在は4世帯8名で、90代1名以外は60代であり、将来を考えると移動手段は必要だと思う。地域としては、有償運送の必要性を感じている。」

##### ④参加者

「私の地域では、たまにバス停で待っておられる高齢女性を見かけるぐらいで、バスを利用している人はほとんどいない。子どもに買物に連れて行ってもらっている人がおられたり、コープも入ってきているので、食材は確保できる状況である。しかし、将来車に乗れなくなるとバスが必要になるので、便数が減るのは仕方ないが、買物に行って帰れる便ぐらいは残していただきたい。」

##### ⑤参加者

「私の地域は市バスが1日20本も走っているが、駅やスーパーが近いため、誰もバスに乗っていない。しかし、10年後に更に高齢化が進んでいることを考えると、今ほどの便数でなくていいので、利用しやすい時間を決めて便を残してほしいという意見があった。」

##### ⑥参加者

「旧市街地では市バスは走っているのか。」

⇒市都市・交通課

「市バスが走っているのは旧3町である。旧市街地では民間バスと地域で運行する自主運行バスが走っている。」

##### ・参加者

「大江地域での自主運行バス導入については検討したのか。自主運行バスよりも、市から提案があった方法の方が良いという判断なのか。」

⇒市都市・交通課

「現在運行している自主運行バスについては、年々利用者が減少しており、乗務員の確保や、車両の老朽化といった問題もあるため、いつまで維持できるかわからないというのが現状である。」

##### ⑦参加者

「自家用有償運送を事業者に委託する場合、事業者の公募・選定は誰がするのか。」

⇒市都市・交通課

「運行主体は地域組織となるため、市も一緒に相談させていただきながら、公正な方法により地域組織で選定していただくことになる。」

・参加者

「事業の立ち上げについても市が相談に乗ってくれるのか。」

⇒市都市・交通課

「事業の立ち上げや手続き、利用促進等についても相談に乗らせていただく。」

⑧参加者

「色々と話を聞いていると、人によって温度差があるように思う。誰かが何とかしてくれるだろうという考えで、切実さが感じられない。市の説明を聞いて、ある程度仕方ないと思う部分もあるが、将来のことを考えると路線バスの必要性はあるのではないかと。デマンド化については賛成だが、高齢者が安心・安全に生活できるように考えていただきたい。」

⑨参加者

「昔の人は免許を持っている人が少なく、バスを利用する人が多かったが、今は皆免許を持っているのでバスを利用することがなくなった。しかし、今後80代になり免許を返してしまうとどこにも行けなくなってしまふ。今は鬼楽バスが週1日運行しているが、2週間に1日になってでも路線を残してほしい。なぜバスに乗らなくなったのかを考えてもらえれば答えが見つかると思う。」

⑩参加者

「説明会について、高齢者は夜に出かけられないので、その辺りも考慮して開催してほしい。」

⇒参加者代表

「これが最後の機会ではない。各地域で色々な意見を聞かせていただいて、集約したうえで市と一緒に考えていきたい。この説明会に限らず、地域の集会等でも自治会長に話をしてもらえれば、意見を吸い上げさせてもらおう。」

⑪参加者

「大江地域は観光資源が多く、観光振興に取り組んできた中で、利用が少ないとはいえ、大江山の家線の土日を廃止するのはどうかと思う。内宮までは丹鉄で行くことができるが、そこからはどうすればいいのか。説明の中で、自家用有償運送で観光客も運ぶことができるようになると聞いて、少し考えが変わったが、大江山をどう活かすのか考えてもらって、もっと住民に寄り添った策を検討してほしい。」

⑫参加者

「バスが無くなると皆困るが、バスを走らせるから乗るか聞かれるとたぶん誰も乗らない。実情をもっと調査してほしい。また、私はグラウンドゴルフをしているが、参加したいけど会場までの移動手段が無くてできないという人がいる。他の参加者に乗せてもらえばいいのではないかと意見もあるが、何かあった時に責任が取れないため他の人を乗せたくないという人が多い。移動手段が無い高齢者の健康増進のために、費用を払えば三段池公園まで連れて行ってもらえるような方法があれば良いと思う。私も免許をそろそろ返さなければならないと思うが、自由に移動できる環境が無いので、環境づくりをしっかりと考えてほしい。」

⑬参加者

「減便によって赤字幅はどれだけ減るのか。」

⇒市都市・交通課

「概算だが、年間200～300万円の削減を見込んでいる。」

⑭参加者

「みわひまわりライドの利用料は1回400円とのことだが、どこまで行けるのか。」

⇒市都市・交通課

「みわひまわりライドは三和地域内の移動に限定しており、地域内であればどこまで行っても一律400円である。特例的に、三和地域の商業施設が閉店した際に、プラント3までの直通買物便を設定しており、こちらは1回800円である。」

(2) 河守上地区

①参加者

「1点目に、コロナの関係もあるので、開催場所はもっと広くて空調が効き換気もできるところを選んでいただきたい(※当日は空調が故障していた)。2点目に、私の家はバス停まで300mはあるが、それでも偶に利用している。アンケートがあったという話だったが、私は意見を聞かれたことはない。厳しい状況は理解できるが、1人でも利用があるならバスの運行を守ってほしいというのが住民の思い。また、舞鶴市の取組の話があったが、高齢者がスマホを用いて交通利用ができるとは思えない。もっと実態に合わせて考えていただきたい。」

⇒市都市・交通課

「今回の説明会で色々な意見を集約させていただき、地域の代表の方々と協議を進めていきたいと考えている。また、バス停まで300mあるとの話だったが、有償運送であればそういった支障事例にも対応できると考えている。」

②参加者

「今、77歳で農作業等に車を使っているが、80歳になると地域交通に頼らなければならないと考えている。提案があった有償運送について、三和地域で既に実施しているとのことだが、三和で赤字であれば、夜久野、大江でも赤字という問題は変わらないだろう。地域交通は営利目的ではないのだから赤字運行は仕方ないのではないか。大江は市街地と違って、バスがなければ生活ができないのが実態である。減便されるとますます過疎化が進むと思う。ただし、状況は理解するし、デマンド化は考えていかなければいけないとも思う。また、開催場所について、場所は総合会館で統一し、地区ごとに開催日を分ける方がよいと思う。」

⇒市都市・交通課

「赤字運行であることは構造的に仕方がない部分はあるが、赤字運行を大きく問題視している訳ではなく、乗車人数が極めて少ない便が多数あることを問題視し、今回提案させていただいている。」

③参加者

「私も鬼楽バスについてデマンド運行ができれば経費削減に繋がると思う。乗る人がいないのに入ってくる必要はないと思う。近所の方は、昔は鬼楽バスを使っていたが、今は周りの人に送迎を頼んでいるようだ。」

⇒市都市・交通課

「今の形態では乗車の有無に関わらず運行している。デマンド化により、確実に平均乗車人数1人以上は見込めるので、効率化していきたいと考えている。」

④参加者

「大変厳しい状況は理解できるが、市では大江地域で観光誘客を目指す取り組みを行

なおうとされている。今回の市バス再編と観光は逆行する話ではないか。しっかりと市としての方向性を統一してほしい。また、市職員はマイカー通勤が許可されているが、市職員が公共交通を利用して通勤したり、会議の際に公共交通を利用するよう案内をしたりと、もっと先頭に立って公共交通利用を促進していただきたい。」

⇒市都市・交通課

「観光誘客と再編について、観光客にも有償運送を積極的に活用いただきたいと考えている。また、マイカー通勤については、ノーマイカーデー等が設けられているが浸透しているとは言い難いのが現状である。」

⑤参加者

「色々な指標を用いて説明いただき、大変厳しい状況は理解できるが、内宮の観光面から話をすると、観光バスが最近増えてきている。それだけ魅力があるところなので、土日祝日の運行が廃止されると痛手だと思う。神社には土日祝日だけで年間約200人が訪れるが、中には仏性寺にはどう行ったらよいかと聞かれることもある。また、大学生はなかなか交通手段を持っていないので観光に来たいと思ったら市バスを利用するのではないか。そういった面でも土日祝日の山の家線の運行は必要だと考える。」

⇒市都市・交通課

「移動手段の確保には、色々な手段があると考えている。臨時便や有償運送など幅広く検討したい。」

⑥参加者

「有償運送の料金について、市バスの料金より高くなるのか。」

⇒市都市・交通課

「市バスが一律200円としているため、有償運送の場合、市バスよりは高くなると思われる。」

⑦参加者

「市バスの厳しい現状は理解できるし、個人的にこれから利用者数が増えるとも思えない。その中で、利用したい人にとってより便利な移送方法を考えていかなければならないと私も考えており、有償運送はとても良い方法だと思う。個別移送ということで、市バスの料金より高くなることは仕方ないことだと思うが、できるだけ今の利用者の負担が増えないよう料金を抑えるなどの検討をしてほしい。また、観光面でも、有償運送は有効だと思うが、三和地域のモデルで言うと当日の予約はできないことがネックになってしまうと思うので、検討してほしい。」

⇒市都市・交通課

「有償運送について、三和地域の体制が既定路線ではないので、今後料金や運営体制を地域と協議して決めていきたいと考えている。」

⑧参加者

「コロナの状況がまだ見通せないが、仮にコロナが終息した場合、反動で観光客が急増することも考えられる。観光が一番盛り上がっている時に減便とならないようにタイミングは考えていただきたい。」

⑨参加者

「最近、免許返納者が増えてきているが、市の免許返納支援事業はどういったものか。また、大江地域で以前までNPOが有償運送をしていたが、今は市街地の団体に移行したと聞いている。移行後の団体で登録さえすれば、家からミニフレッシュ大江

店まで運んでもらえるのか。また、料金はいくらか。」

⇒市都市・交通課

「高齢者免許返納支援事業として、タクシークーポン券5,000円分か敬老乗車券6,000円分のいずれかを交付している。また、大江鬼の里クラブが平成30年度に事業廃止し、市内NPOに一部の会員が移行したと聞いているが、NPOが実施しているのは福祉有償運送であり、誰でも利用できるという訳ではない。料金については、各団体に設定されており、今明確には分かりかねるが、概ねタクシーの2分の1程度の料金と思われる。」

・参加者

「これから高齢化が進んでいくと、説明にあったようにバス停まで行けなくなることを考えていく必要があり、ドア・ツー・ドアの移送形態は理に適っていると思う。ただ、利用料金が高くなるとどうしても利便性が落ちるので、負担が大きくならないよう検討いただきたい。」

⑩参加者

「これからの協議の進め方を確認したい。」

⇒市都市・交通課

「今回の6地区説明会で意見を集約させていただき、まちづくり住民協議会や代表自治会長と再度協議の場を持ちたいと考えている。具体的な進め方は、協議の場で検討したいと思う。」

⑪参加者

「大江山の家線の再編案について、第11、12便が17時台に運行するようになっているが、むしろ現行通り、15:42蓼原発の方が使い勝手が良いと思う。私もこの便を利用しており、あおまつ（大江駅15:35着）と接続しているため利用しやすい。その便は、利用するときはずっと私1人だが、夕方5時台にする方がもっと利用が少ないと思う。」

⑫参加者

「再編のスケジュールについて、市バスの再編と有償運送の導入は同時に行う予定とすることでよいか。有償運送の導入について、まちづくり住民協議会と協議は進んでいるのか。」

⇒市都市・交通課

「今のところ再編と有償運送の導入は同時期を予定している。」

・大江まちづくり住民協議会

「有償運送の導入に係る協議は、まだまだ進んでいない部分があるし、安全面や継続的な運営体制の確保について慎重な協議を要していると考えている。交通事業者協力型の提案もあっているが、ベストな方法かは分からない。再編と有償運送導入が並行して進捗しているという訳ではない。」

・参加者

「再編だけが先行して実施される可能性もあるのか。」

⇒市都市・交通課

「あくまで協議の結果次第だが、可能性はゼロではない。」

### (3) 有路上地区

①市都市・交通課

「本日来られている方で、普段バスに乗られている方や乗ったことがある方はおられるか。」

⇒男性（60代ぐらい）が1名市バスを利用したことがあるとのことであった。

②参加者

「市バスは運賃が200円均一であり、仏性寺から大江駅まで乗っても200円と安い運賃設定だと思う。安いのはいいことだが、なぜ200円均一なのか。」

⇒市都市・交通課

「利用しやすさから一律200円で設定したものと思われる。」

※市バスの運賃については、利便性向上のため平成21年7月1日から一律200円に改定した経過がある。

③市都市・交通課

「昨日の俊明多目的集会所では、市として観光に力を入れていると言いながらバスを減らすというのは矛盾しているのではないかという御意見もいただいたが、市バスは観光客が利用しようと思うと時間を気にしなければならないが、有償運送であれば時間や乗降場所を気にせず利用できるのも、観光客にとっても利用しやすくなると考えている。」

④参加者

「三和地域で実施しているスクールバスの一般混乗について紹介してほしい。」

⇒市都市・交通課

「三和地域では平成31年4月からの学校統合に併せてスクールバスの一般混乗を開始した。三和地域の場合はスクールバスに空席があり、せっかくなので一般住民にも便乗してもらおうという取組である。運賃は市バスに準じて1回200円としている。実施にあたっては、知らない人がスクールバスに乗ってくるのは不安であるとの意見が多く、三和地域住民限定の会員登録制とすることで御理解を得ることができた。大江地域では令和3年4月から統合されると聞いているが、空席や経路等についてはこれから検討していくと教育委員会から聞いているので、実施可能であれば大江地域でも展開していきたいと担当課としては考えている。」

#### （4）河東地区

①参加者

「三和の有償運送では、目的地まで片道1回、往復で2回という計算になるのか。また、有償運送について、もし事故があった際は誰の保険を適用するのか。」

⇒市都市・交通課

「三和については仰る通り、片道で1回400円、往復で2回800円という計算になる。また、事故があった際は、まずドライバーの加入する保険を適用することとなる。ただし、ドライバーの保険ではカバーできない部分を補償する保険も各損保会社で取り扱いを始めている。」

・参加者

「事故の件に関して、有償運送において地域として最も懸念されるのは事故があったときの対応だと思う。万一事故が起こった場合にドライバーの保険がまず適用されるのは理解できるが、相手方がいた際の示談交渉などに、市としても対応してもらえるのか。市のスタンスをお聞きしたい。」

⇒市都市・交通課

「事故の対応については最も難しいところだと認識している。他の市町の有償運送においても、事故の事例自体が少なく、情報収集ができないこともあり、市の対応方針を断定的に申し上げることにはできない。事故を未然に防ぐという観点からは、有償運送ということで実際に人を乗せて走るのだから、一定の緊張感・責任感を持って運行してほしいと考えている。また、ドライバーの登録の際に事故歴等の審査も必要になると考えている。」

## ②参加者

「三和の有償運送と二箇下線を比較すると市の利用者一人当たり財政負担額は二箇下線の方が低額となっているが、この評価基準を満たすかどうかクリアしているか否かを以て、再編を進めていくのか。」

### ⇒市都市・交通課

「評価基準を設けているので、各指標は再編検討の判断に用いるが、機械的に基準に満たない路線を削減や、全てを有償運送でまかなっていくといった方針が決まっている訳ではない。」

### ⇒市都市・交通課

「利用の多い市バス路線は幹線として残し、並行して有償運送を導入し、地域にあった利便性の高い運送形態を模索したい。」

## ③参加者

「三和地域ではドライバーが20名程いるが、大江地域では何人での運行を想定しているのか。また、谷筋などで地域に誰もドライバーがいなかった場合どうするのか。」

### ⇒市都市・交通課

「大江での明確な人数は未定だが、地域にドライバーがいない場合、現状では近隣のドライバーが運行することを想定している。」

#### ・参加者

「実際に市バスを利用している人はこういう説明会には来ることができないと思うが、有償運送を導入した際どうやって周知をしていくのか。」

### ⇒市都市・交通課

「周知方法については課題の1つだと考えている。三和の事例で効果が高かったのは口コミだった。チラシの配布のほかにも色々な方法を検討したい。」

#### ・大江まちづくり住民協議会

「確認になるが、有償運送を導入したからといって、すぐに市バスを削減していくということではないということではいいか。」

### ⇒市都市・交通課

「有償運送ありきですぐに市バスを全便なくしていくということではない。もし、地域にとって有償運送が便利だと思っていただけたなら、有償運送にシフトしていきたいと考えている。」

#### ・大江まちづくり住民協議会

「まちづくり住民協議会内部での協議では、各校区に5、6人はドライバーが必要だと考えている。また、今回の再編については、広報紙などで協議会からも発信していきたいと考えていることを申し添える。」

## ④大江まちづくり住民協議会

「土日祝日は運休という案が示されているが、土曜日の二箇下線では1人以上乗っている便があるが、二箇下線のみ残すといったことについて再考の余地はないか。ま



た、特に土曜日に利用している人に対しては、運休となるのであればしっかりと事前に周知をしていく必要があると思う。」

⇒市都市・交通課

「今回の再編案に対する意見を集約し、再度まちづくり住民協議会や大江代表自治会と協議したいと考えている。また、利用者への周知について、運転手へのヒアリングなどを行い、何とかして利用者につながっていきたいと考えている。」

⑤参加者

「病院によく通っているが、ずっと前から診察が決まっていることもあるが、急に決まることもあり、また、診察時間にも長短があると思う。有償運送でも急な予約に対応できるような体制を作ってほしい。」

⇒市都市・交通課

「通院と買い物の利用が最も多いと思うので、柔軟な体制が取れるよう検討したい。」

⑥参加者

「有償運送では大江町内の移動に限定されるのか。そうであれば、400円は少し高いように思う。」

⇒市都市・交通課

「有償運送は原則大江町内に限られる。また、料金については距離制、時間制など色々な料金体系をとることも可能。ただし、ドア・ツー・ドアとして利便性は高まるので、市バス以上タクシー未満の料金となるように考えている。」

⑦参加者

「町内で有償ボランティアと表示のある車が走っているのを見かけるが、今回の有償運送と競合したりしないのか。」

⇒市都市・交通課

「福祉有償運送車両を見られたのだと考えるが、福祉有償運送と公共交通空白地有償運送では利用者がバッティングすることはなく競合はない。また、既存の交通事業者についても、協議の場を設けすり合わせを行う。」

⑧参加者

「観光客の有償運送の利用について、三和では会員制をとっているが、観光には馴染まないと考えるがいかがか。」

⇒市都市・交通課

「法改正が未施行であるため、詳細は未定であるが、会員制が観光には馴染まないことは承知しており、利便性の高い方法を検討したい。」

・大江まちづくり住民協議会

「観光についてはどの会場でも意見が出るが、法改正で観光客も有償運送を利用できるようになったとしても、観光客が利用しやすい制度になるとは正直思えない。しかし、まず守るべきは日常の生活利用できる交通であるため、一旦観光と切り離して考えるのも手だと考える。」

⑨参加者

「三和の事例では、年々収支欠損が拡大しており、利用者の伸びも芳しくないように見えるが、市としてどのように評価しているのか。」

⇒市都市・交通課

「収支欠損について、利用料金と運転手手当で構造的に利用が多ければ多いほど欠損が拡大する形態であるため、一定やむを得ないところもあるが、費用面を再考する

必要はあるように考えている。また、利用回数についてもコロナの影響もあり想定以上の伸びとは言えないが、着実にすそ野は広がっていることは評価できると考えている。」

⑩参加者

「財政が大変厳しいのは理解できるが、市としても現状を再点検し、費用の縮減に努めてほしいと思う。例えば、スクールバスは朝夕の運行を除いて車庫で眠ったままとなっているようだが、何らか活用できないか。」

⇒市都市・交通課

「三和の事例では、スクールバスの一般混乗を平成31年4月から行っている。スクールバスの空き座席に一般客が乗車するものであるが、登校便と下校便で生徒の利用に合わせて運行するので、色々な制約があるがそういった手段もある。大江においても学校再編があり、スクールバスの運行も見直されると思う。もし、座席にも余裕があり、導入できるのであれば検討したい。」

(5) 有路下地区

①参加者

「便当り平均乗車人数は、全区間乗った場合に1人とするのか、1区間乗っただけでも1人とするのか。」

⇒市都市・交通課

「1区間の利用であっても、1人としてカウントしている。」

②参加者

「鬼楽バスのデマンド化について、例えば、南山線は現在8時40分に西部観音寺を出発しているが、予約があるとこの時間に走るということか。」

⇒市都市・交通課

「そのとおりである。」

③参加者

「事業者協力型有償運送について、タクシー事業者が地域組織の仕事を手助けするということか。ドライバーの派遣等はないのか。」

⇒市都市・交通課

「タクシー事業者は安全管理や配車等の運行管理を行い、ドライバー及び車両は地域で確保していただくことになる。」

④参加者

「有償運送で移動できる範囲を教えてください。」

⇒市都市・交通課

「大江地域内全域で利用いただける。」

⑤参加者

「市バス再編か有償運送導入のどちらか一方ではなく、両方やるということか。」

⇒市都市・交通課

「市バスを一気に無くすのではなく、利用の少ない便の削減等を段階的に行いながら、個別移送への転換を進めていきたいと考えている。」

⑥参加者

「公共交通空白地有償運送とのことだが、市バスが走っている地域で実施しても問題ないのか。」

⇒市都市・交通課

「大江地域については市のガイドラインで公共交通空白地として位置付けており、併行して実施しても問題ない。」

⑦参加者

「三河、高津江地域は京都交通の大江線が走っているが、その地域の人も有償運送を使えるのか。」

⇒市都市・交通課

「利用いただける。」

・参加者

「鬼楽バスがデマンド化された場合、運行しない日は有償運送を利用するというのも可能か。」

⇒市都市・交通課

「可能である。」

・参加者

「運休日と運行時間はどうなるのか。」

⇒市都市・交通課

「三和地域で実施している“みわひまわりライド”では、月～土曜日の8時30分～17時までの運行としている。これはあくまでも三和地域の事例であり、運用については事業立ち上げの際に調整いただくことになる。」

⑧市都市・交通課（スクールバス一般混乗について紹介）

「三和地域では平成31年4月からの学校統合に併せてスクールバスの一般混乗を開始した。三和地域の場合はスクールバスに空席があり、せっかくなので一般住民にも便乗してもらおうという取組である。運賃は市バスに準じて1回200円としている。実施にあたっては、知らない人がスクールバスに乗ってくるのは不安であるとの意見が多く、三和地域住民限定の会員登録制とすることで御理解を得ることができた。大江地域では令和3年4月から統合されると聞いているが、空席や経路等についてはこれから検討していくと教育委員会から聞いているので、実施可能であれば大江地域でも展開していきたいと担当課としては考えている。」

⑨市都市・交通課（他地域での説明会で出た意見について紹介）

「他地域の説明会では、観光客が来るのにバスが無ければどうすればいいのかという意見も多かったが、有償運送であれば時間や乗降場所を気にせず観光を楽しんでいただけたらと考えている。」

⑩参加者

「私はバスに1度も乗ったことがないが、80歳を超えているのでいずれ免許を返納する時がくる。その時には、最低限の生活をするための移動手段が必要だと思うが、今は切迫感が薄い。スクールバスの一般混乗の話を知ると、学校までしか行けないようだが、せめて駅や病院まで伸ばしてもらわないと利用できない。やり方次第では便利になると思う。」

⇒市都市・交通課

「言われるように、工夫の余地はあるかと思う。」

⑪参加者

「資料の中の有償運送について、現行では“利用会員を確保”と記載されているが、市の案では“利用者の確保”になっているのはなぜか。また、昨年実施されたアン

ケートの中で、市バスの維持確保のあり方について、“公費をどんどん投入してでも運行を維持すべきだ”という選択肢に悪意を感じた。どんどん投入してでもと言われると、さすがにその選択肢は選べない。また、バスとは関係ないが、築堤工事が途中までしかされておらず、この地域はどんどん住みにくくなって切り捨てられていくという被害者意識がある。そのうえ公共交通まで無くなってしまったら、ますます住みにくい地域になってしまう。」

⇒市都市・交通課

「有償運送については、現行法では利用できるのは会員のみとなっている。法改正の細かな部分はまだわかっていないが、観光客が利用できるようになるのであれば、会員登録が必要なくなるのではないかとの見通しから、法改正後は“利用者”と表記している。また、アンケートの内容については、誤解を与える表現があったことをお詫びする。住みにくくなると言われたことについては、市バスの再編は行うが、公共交通を必要とする人はおられるので、より便利に使ってもらえる代替手段として、有償運送の導入を提案させていただいた。」

⑫参加者

「二箇下線は少ないとはいえ土日もそれなりに乗っているが、土日を廃止して有償運送が月～土しか走らないとなると、日曜日の移動手段が無くなってしまう。その辺りは実際乗っている人の意見を十分聞いたうえで対策を検討いただきたい。」

⇒市都市・交通課

「承知した。」

⑬参加者

「市バスがこの地域まで走っていただいているのはありがたいと思っており、バスが無くなればこの辺りは人が住めるような地域でなくなってしまいます。高齢化が進んで運転できる人がどんどん減っていき、公共交通に頼るしかない状況の中で、バスが無くなると若者が帰ってこなくなり、更に高齢化が進んでしまう。」

⇒市都市・交通課

「バスを削減するだけでなく、新たな交通移動手段を導入することで、利便性を高めたいと考えている。」

⑭参加者

「有償運送は大江地域内でしか使えないとのことだが、市街地まで乗り継ぎ無しで行きたい場合はタクシーを使うしかない。将来的に市街地に行けるようにできないか。」

⇒市都市・交通課

「市街地はタクシーが走っているので、有償運送が乗り入れできないエリアである。大江地域の拠点は大江駅なので、市街地に行く場合は大江駅から丹鉄に乗り継ぐ等、既存の公共交通を利用いただきたい。」

⑮参加者

「これから高齢化でバス停まで歩くのも大変になると思われる。昔京都に住んでいた時はフリー乗降できるバス路線があったが、市バスもフリー乗降できないか。」

⇒市都市・交通課

「市内でも以前は一部フリー乗降ができる区間があったと聞いているが、現在は実施していない。フリー乗降は安全上の問題からも全国的に減ってきており、新たに実施しようとする警察の許可を得るのも困難である。」

## (6) 河守地区

### ①参加者

「有償運送が観光客も利用できるとのことだが、土日祝日も利用できるのか。また、料金は1回400円になるのか。」

⇒市都市・交通課

「運用面は未定であるが、制度的には土日祝日も運行は可能である。三和の事例では、月～土まで運行しているが、詳細については今後検討していきたい。」

### ・参加者

「観光面で土日祝日の大江山の家線は維持していただきたい。博物館では8月は前年の2倍の来館があり、その中でも市バスの利用は複数件あった。丹鉄との接続の関係で片道のみ市バスを利用した方もおり、丹鉄との接続により更に市バスの利用者の増加が見込めるように思う。今後様々な取り組みにより観光が盛り上がった時に土日祝日運休となるとどうかと思う。酒吞童子祭りの日などは臨時便を出していただいているが、臨時便は各所管課が予算を持っており弾力的に動くことが難しいように思う。」

⇒市都市・交通課

「いただいた意見を集約し、土日祝日の運行も含めて引き続き検討したい。」

### ②参加者

「市バスの利用者が少ない要因は何だと分析しているのか。」

⇒市都市・交通課

「最も大きな要因は、やはり自家用車の普及だと考えている。また、利用者が増えないことにはハード面の整備ができず利便性の向上が図れないという負のスパイラルに陥っている。」

### ・参加者

「今回の再編については、市の財政が苦しくなったから赤字路線を削減するという内容に見えてしまうため、大江地域の交通をどうしていくのかという市の基本方針を示していただきたい。」

⇒市都市・交通課

「市の財政負担額については再編の評価基準にも用いており重要な指標ではあるが、それ以上に、まず路線バスという大量移送の交通形態が時代のニーズにそぐわなくなっていることに問題意識を持っている。これから高齢化や免許返納によりバス停まで行けない方が増えることが予想されることから、市としては個別移送サービスへの転換を進めていきたいと考えている。」

### ③参加者

「資料で収支状況が悪いことは理解できるが、なぜ利用促進などの改善の措置をその都度行ってこなかったのか。唐突に土日祝日を削減するという説明であり、結論ありきで議論が進んでいるように聞こえるが、市バスの利用促進についてもっと考える必要があるのではないか。そもそも、市バスの再編をしながら、一方で高齢者の免許返納を進めるのでは、施策として逆行しているのではないか。」

⇒市都市・交通課

「急なスケジュールとなったのは申し訳ない。また、再編の内容については、今回が最後ではなく、引き続き地域と協議したいと考えている。」

⇒市都市・交通課

「免許返納との施策としての方向性については、先ほどもあったようにバス停まで行けなくなる方の増加を考えると、新しい個別移送への移行は必要になってくると考えている。」

④参加者

「市バスの利用者の利用目的については分析されているのか。」

⇒市都市・交通課

「最も多いのが通院、次点で買い物であり、この2つで全体の8割程度を占めている。」

・参加者

「市バスの利用促進について、現在も敬老乗車券事業があると思うが、以前は有効期間が2年間で使いやすかったが、今は有効期間が1年間になってしまい不便になってしまった。以前のように有効期間を2年に戻すことはできないか。」

⇒市都市・交通課

「敬老乗車券については、制度面で見直しの議論があり、有効期間を1年とした経緯があり、以前のように2年に戻すことは難しい。」

・参加者

「市バスや有償運送について、近隣市町と連携し、市町間を行き来できるような制度となれば利便性が向上するように思う。」

⇒市都市・交通課

「三和では綾部に乗入していることから、可能性はゼロではないが引き続き利用状況を勘案し検討したい。」

⑤市都市・交通課（スクールバス一般混乗について情報提供）

「有償運送とは異なる代替交通手段として、三和地域ではスクールバスへの一般混乗を行っている。大江においても学校再編があり、スクールバス台数や経路も大きく変わらと思うが、もし座席数にも余裕があり、保護者の理解も得られるようであれば導入を検討したいと考えている。」

⑥参加者

「みわひまわりライドの地域での評判はどうか。良い点、悪い点を教えてほしい。」

⇒市都市・交通課

「やはりドア・ツー・ドアとして、玄関先まで来てくれることは大変好評である。一度利用された方は、リピーターとして利用いただいている。また、400円という料金設定に対し、高いという声はほとんど寄せられていない。一方、ひまわりライドを利用していない人にその理由を聞くと、制度をよく知らないし、予約の電話をかけるのが手間だという意見が多い。ただし、利用者によるクチコミキャンペーンを実施し、一度利用されたら案外簡単なんだと理解いただき、リピーターに繋がるケースも多い。」

## 4 意見集約・まとめ

### (1) 生活基盤である市バスがなくなることへの懸念

今回の再編に対し、「市の財政状況悪化に伴う市バス全廃への第1段階」というイメージを持たれる方が多く、今は市バスを利用していないが、将来利用するときのために維持してほしいという意見が多かった。また、有償運送が代替交通となり得るのか、ドライバーの確保など長期的に運行を継続できる体制が構築できるのか疑問視する声が多かった。

⇒法改正の内容や大江地域での有償運送のスキームについて情報発信し、今回の再編が地

域の実態に合った交通体系への転換であることを認識していただく必要がある。

## （２）観光に関する意見

今後、様々な取り組みやコロナ禍の反動による観光客増加が見込まれるとのことで、大江山の家線の土日祝日の運行継続を希望する意見が多かった。ただし、利用客が少ないことは利用実績の数字に表れており、地域としても観光へのバス利用促進は不十分だったとの見解だった。有償運送のスキームと、法改正による観光客の利用についても説明を行ったが、三和地域の事例のイメージが先行し、現行制度である会員制や2日前の予約に難色を示されていた。

⇒有償運送をもって、生活利用と観光利用の需要をカバーできればよいが、観光利用について市バス以外の+αの交通手段を検討する必要がある。

## （３）現行の公共交通に対する意見

市バスにしても、有償運送にしても、市街地や近隣市町まで直接行くことができないかとの要望があった。また、敬老乗車券事業のような市バスの利用促進施策をもっと実施すべきとの意見があった。

⇒幹線と支線との役割の違いや公共交通空白地有償運送自体の意義についても情報を発信する必要がある。また、利用促進事業について、再編を進めながら、一方で市バスの利用促進施策を実施することは効率性や効果の面から有効ではないと考えられるため、まずは再編の内容をしっかりと詰めていき、次いで再編後の交通体系に即した利用促進事業を検討していく必要がある。

以上